

# 【聽譯】 華鳥風月



嗚呼 華のように鮮やかに さあ

嗚呼 鳥のように優雅に

嗚呼 風まかせも心地良い さあ

嗚呼 月明かり照らされて

啊 像花那樣鮮豔 颯

啊 像鳥那樣優雅

啊 憑風拂面也很舒服  
颯

啊 明月光輝照耀世間

---

正しさなんてもの  
人の物指しによって変わる

この世界 不変あるとするならば

華鳥風月 厳かで美しいもの

所謂的正確與否  
會根據人的判斷而改變

這個世間 要說不變的事物 唯有

花鳥風月 這些莊嚴而美麗的事物

---

後悔をして 学び また歩もう

二度と過ち 繰り返さぬように

歴史とは 変わらぬ感情が

廻り廻って 傷つけて和解された

世界の成長

經歷過後悔 學會教訓  
繼續前行

不要讓錯誤再一次重複發生

所謂的歷史 也就是不變的感情

峯迴路轉 相互中傷又和解

也是世界的成長

---

正しさなんてもの  
大人にも分からない幻想

この世界 不変あるとす  
るならば  
華鳥風月 穏やかで懐か  
しきもの

所謂的正確與否  
更多是連大人都無法理解  
的幻想

在這世間 要說不變的事  
物 唯有  
花鳥風月 這些穩重而令  
人懷念的事物

---

汚れぬことが  
正義なのだろうか？  
過ちの中にあるけじめに

魅せられ知った 穢れを  
恐れぬ愛も  
正しさと言うこと

不同流合汚  
就能算是正義了麼？  
一次次犯錯中 尋找每次  
的區別

被魅惑後又知情 卻還無  
懼於污點的愛  
也能說是正確的吧

---

形無いからこそ  
感じようと思える  
それも 生けるものすべ  
て内側に持つ  
華鳥風月 測れないから  
意味がある  
だからこそ 愛を彷徨う

正因為沒有形狀  
所以纔更想去感受到  
這一點也 讓它存在的原  
因全都是發自內心  
花鳥風月 因為無法測量  
所以纔有意義  
正因如此 纔會在愛中彷  
徨

---

悲しめる心も	讓人悲傷的心也
怒れる優しささえも	就連讓人憤怒的溫柔也
きっと 生けるものすべて内側に持つ	一定是 讓它存在的原因 全都是發自內心
華鳥風月 何処までも美しくなれ	花鳥風月 無論何處 都 美麗動人
いつまでも美しくあれ	無論何時 都美麗動人

---

《花鳥風月》，算是比較著名的東方改編曲了，因為作為《幻想万華鏡》的片頭片尾曲，配上了動畫的片段，算是對整個東方正作故事中描繪事物的總結。就像我第一篇翻譯的歌詞《童遊》因為是對神主ZUN自己的主題曲《童祭》的重新譜詞而有了總起的性質，這篇《花鳥風月》也因為用在《幻想万華鏡》而有了總結的性質。

---

あゝ	はな	あざ		
嗚呼	華	のように	鮮やかに	さあ
あゝ	とり	ゆうが		
嗚呼	鳥	のように	優雅に	
あゝ	かぜ	こちよ		
嗚呼	風	まかせも	心地良い	さあ
あゝ	つき	あ	て	
嗚呼	月	明かり	照らされて	

---

ただ  
正しさなんてもの  
ひとものさか  
人の物指しによって変わる

この<sup>せかい</sup>世界 不<sup>ふへん</sup>変 あるとするならば  
かちょうふうげつ おごそ うつく  
華鳥風月 巖 かで美 しいもの

---

こうかい まな あゆ  
後悔<sup>こうかい</sup>をして 学<sup>まな</sup>び また歩<sup>あゆ</sup>もう  
に ど あやま く かえ  
二<sup>に</sup>度<sup>ど</sup>と過<sup>あやま</sup>ち 繰<sup>く</sup>り返<sup>かえ</sup>さぬように  
れきし か かんじょう  
歴<sup>れきし</sup>史<sup>し</sup>とは 変<sup>か</sup>わらぬ感<sup>かんじょう</sup>情<sup>じょう</sup>が  
めぐ めぐ きず わかい  
廻<sup>めぐ</sup>り廻<sup>めぐ</sup>って 傷<sup>きず</sup>つけて和<sup>わかい</sup>解<sup>かい</sup>された  
せかい せいちょう  
世<sup>せかい</sup>界<sup>かい</sup>の成<sup>せい</sup>長<sup>ちょう</sup>

---

ただ  
正<sup>ただ</sup>しさなんてもの  
おとな わ げんそう  
大<sup>おとな</sup>人<sup>にん</sup>にも分<sup>わ</sup>からない幻<sup>げん</sup>想<sup>そう</sup>  
この<sup>せかい</sup>世界 不<sup>ふへん</sup>変 あるとするならば  
かちょうふうげつ おだ なつ  
華<sup>か</sup>鳥<sup>ちょう</sup>風<sup>ふう</sup>月<sup>げつ</sup> 穩<sup>おだ</sup>やかで懷<sup>なつ</sup>かしきもの

---

けが  
汚<sup>けが</sup>れぬことが  
せいぎ  
正<sup>せいぎ</sup>義<sup>ぎ</sup>なのだろうか？  
あやま なか  
過<sup>あやま</sup>ちの中<sup>なか</sup>にあるけじめに  
み し けが おそ あい  
魅<sup>み</sup>せられ知<sup>し</sup>った 穢<sup>けが</sup>れを恐<sup>おそ</sup>れぬ愛<sup>あい</sup>も  
ただ い  
正<sup>ただ</sup>しさと言<sup>い</sup>うこと

---

かたち な

形 無 いからこそ

かん

おも

感じようと 思える

それも <sup>い</sup>生けるものすべて <sup>うちがわ</sup>内側 <sup>も</sup>に持つ

かちょうふうげつ

はか

いみ

華鳥風月 測れないから 意味がある

だからこそ <sup>あい</sup>愛を <sup>ほうこう</sup>彷徨う

かな

こころ

悲しめる心も

おこ

やさ

怒れる優しささえも

きっと <sup>い</sup>生けるものすべて <sup>うちがわ</sup>内側 <sup>も</sup>に持つ

かちょうふうげつ

どこ

うつく

華鳥風月 何処までも美しくなれ

いつまでも <sup>うつく</sup>美しくあれ



巡って廻って (Pixiv 72616493)